

図書館だより 第29号



<リフトを装備し、車椅子のまま利用できる自動車文庫・新「よまんまいかー2号車」>

本館は、アスベスト除去工事のため、
2月18日～6月末まで、休館中です。
大変ご不便をおかけしておりますが、
よろしくお願いいたします。



目 次

平成20年度 富山市立図書館主要事業・音声読書機「よむべえ」について	2
学校訪問紹介.....	3
先進図書館見学記	4
いちおしライブラリー 第17回 「ロハス入門」	5
岩倉政治文庫の資料 3	7
レファレンスあれこれ	8

平成20年度 富山市立図書館主要事業

《(仮称)とやま駅南図書館整備事業について》

C i Cビル3階にある「とやま市民交流館図書サービスコーナー」の拡充を図るため、(仮称)「とやま駅南図書館」として4階に移設し、ビジネスマンや中・高校生を対象としたサービスを拡充します。

施設の面積は、約2.3倍になり、蔵書数も現在の6,000冊から11,000冊へ増やします。

また、商用データベースを5種類増やし、電子情報の提供環境を充実させます。

《本館の外壁改修工事について》

19年度に外壁を調査した結果を受けて、外壁の北・東・西面の改修工事を行います。工事期間は約3ヶ月の予定です。



<とやま市民交流館図書サービスコーナー>



音声読書機「よむべえ」について



「音声読書機」は、視力の弱い高齢者や、視覚障害をお持ちの方のために、印刷された活字文書を、音声で読み上げる機械です。

これまで当館では、こうした活字による読書に困難を伴う方々のために、点字図書や録音図書を提供することで、読書の普及をはかってきました。点字図書や録音図書は、一度作成すれば資料として保存でき、何度も利用が可能であるため、図書や雑誌など情報量の多いものに向いています。しかしその一方、作成には時間と労力を要するため、文書や案内チラシといった、情報量が少なめで、利用する頻度も少ないものについては、非効率的であるといった問題がありました。

音声読書機「よむべえ」は、原稿台に印刷物をのせ、簡単な操作を行なうだけで、その場で印刷物の内容を読み上げます。

(音声読書機「よむべえ」本体)



市役所の広報や案内通知、活字主体のチラシや書類など、ちょっとした文書の内容を、読み取るのに最適です。図書館の発行する増加図書目録や、「図書館だより」の読み上げにも効果的です。また、活字で印刷された、通常の図書や雑誌も読み上げることができます。(ただし、レイアウトの複雑なものや、特殊な字体を使用したものなど、一部読み上げに適さない場合があります)

これまで、点字図書や録音図書では対応しにくかった資料を、手軽に利用できることになり、高齢者や視覚障害をお持ちの方にとって、読書の幅がいつそう広がっていくことと思います。

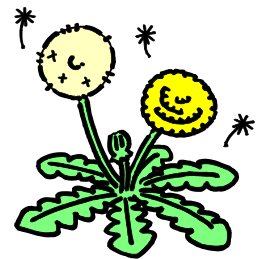
今後図書館では、市内の各地域館や分館で、「よむべえ」の操作実演(デモンストレーション)を行なうなどして、音声読書機の普及につとめていきたいと考えています。

(本館・館内奉仕係 坂元)

学校訪問紹介



<2月、新庄小学校でのブックトークの様子>



<2月、西田地方小学校でのストーリーテリングの様子>

子供たちの声から

ぼくは、本をあまり読んだことがないんだけど本の楽しさがわかって本を読むようになりました。
また、おもしろい本があれば、紹介してください。(呉羽小2年 Y君)

富山市立図書館では、子供たちに読書の楽しさを体験してもらい読書のきっかけとなるように、学校訪問をしています。

本館、分館、地域館(32校159クラス4,628人)において、1年生や2年生の教室に出かけて行き、本の読み聞かせやストーリーテリング(お話)一つのテーマのもとに数冊の本を紹介するブックトークをしています。

紹介した本は、1ヶ月間教室に置いてきますので、子供たちはゆっくりと手に取って読むことができます。

自分で読むのと、読んでもらうのとでは感じ方や受け取り方も違い、より一層本の楽しさが伝わるようです。

また、自動車文庫では、巡回をしている小学校2年生(19校32クラス735人)を対象に学校訪問を行っています。

これからも、子供たちと本とを結びつけるために取り組んでいきたいと思っております。

(水橋分館 深井)

先進図書館見学記 新潟市立中央図書館

1. 図書館の概要

政令指定都市新潟市の核となる中央図書館は平成 19 年 10 月に小学校跡地に開館しました。

愛称の「ほんぼーと」は、本の港と本州日本海側初となる政令都市の図書館の意味が込められているそうです。



<図書館全景>

2. 図書館の特徴

(1) 周囲の景観に馴染んだ建築

図書館は3階建てで、延べ床面積は17政令市6番目の大きさです。建物は住宅地において巨大に見えすぎないように上階に行くほど小さくなっています。

また、かつて古信濃川が敷地の西側に流れていました。その記憶を、水たまりのイメージで表現したそら豆(ビーンズ)型の屋根を持つ3つの部屋があります。

1階の「こどもとしゃかん」のグループ学習室(ビーンズルーム)、3階の多目的ホール(ビーンズホール)などまわりの景観に馴染むよう配慮されたデザインです。

(2) 年代や利用目的に合わせた配置

1階の閲覧フロアは、暮らしに役立つ資料や文学系の資料、新聞・雑誌コーナーなどがある一般スペースと「こどもとしゃかん」と呼ばれる子どものスペースがあります。

2階は比較的専門性の高い資料を中心に、「参考図書コーナー」「郷土行政コーナー」「ビジネス支援コーナー」など利用目的に合わせた配置となっています。



<こどもとしゃかん おすすめ本>

(3) 滞在型機能の充実

1・2階の開架エリアは書架を中心部に配置し、窓際などに730の座席があり、落ちついた読書スペースが設けてあります。また正面エントランスには、軽食・喫茶コーナーのカフェが併設されています。

(4) その他

デジタル資料も充実しており、インターネット端末20台、オンラインデータベース端末6台(データベース10タイトル)も設置されています。

45万冊収納可能な自動出納書庫には、現在10万冊収納されており、出納書庫ステーションも各階使いやすい位置に配置されています。



<自動化書庫 取出口>

3. 基礎データ

・奉仕人口	810,000人
・複単別	単独施設
・延床面積	9,123.94 m ²
・蔵書数	210,000冊
・収蔵能力	開架 350,000冊 書庫 450,000冊
・閲覧席	730席
・駐車場	100台
・建設費	5,000,000千円

(本館・児童奉仕係 高田)

いちおしライブラリー 第17回 LOHAS入門

「^{ロハス}LOHAS」と聞いて、一度くらいは耳にしたことはあるがどんな意味だろうと思われる方が多いと思います。

『Lifestyles Of Health And Sustainability』の頭文字をとった造語で、日本では、地球にも個人にもやさしく健康的な生き方を実践するライフスタイルと訳されているようです。

国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」など温暖化防止に向けた運動が盛んになってきている今、自分にできる「環境にやさしい生活」を考えてみませんか。

<ロハスの原点を学ぶ>

著作権保護のため
画像はありません

『日本をロハスに変える
30の方法』
(NPO)ロハスクラブ / 著
講談社 2006)

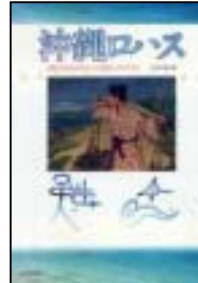
LOHASは、1990年代の終わり、アメリカコロラド州で生まれ、「持続可能な経済」「健康的な生活様式」「代替医療・自然医療」「自己開発」「環境に配慮した生活様式」の5つのマーケットで全米に広まりました。

2005年には、アメリカ人の23%がLOHAS層だと言われています。

日本では、2002年9月に、日本経済新聞の生活情報面で初めて紹介されました。

本書では、ロハスが日本に浸透した背景から始まり、ロハス層に愛される企業・団体・自治体などの発想事例を多く紹介しています。

これからロハス関連の仕事を始めようと思っている方にもお勧めです。



『沖縄(ウチナー)ロハス』
天空企画 / 編
山と溪谷社 2006)

本書の副題に「自然の恵みを生かした暮らしのスタイル」と紹介されているように、沖縄ではロハスという言葉が生まれるずっと前から、ロハス的な生活をし、長寿の島と言われてきました。

ゴーヤに代表される沖縄野菜など、大地や海からの自然の恵みを生かした沖縄の生活を紹介した一冊です。

自然をありのままに受けとめるロハスの原点を探るのにふさわしい本です。



<暮らしをつくる>

4月1日から富山県では、地球温暖化防止や資源節約のため、県下一斉にスーパー25事業者でレジ袋の無料配布取り止めが実施されています。一人ひとりができることからロハスライフを始めませんか。



『環境(エコ)生活のススメ
-あなたにもできる!-』
(箕輪 弥生 / 著
飛鳥新社 2007)

著者は、マーケティングプランナーとして活躍。最近では環境に配慮した商品の開発や企画をし、自身も

ソーラーエネルギーや雨水を利用したエコハウスに住んでいます。

本書の第1章「エネルギー編」では、冷蔵庫の設定温度を見直そうから始まり、第2章「3R編」では“Reduce”(減らす)“Reuse”(再利用)“Recycle”(資源にもどす)生活の基本を教えてください。

「何かをしたいけど、何をすればよいかわからない」と思っている方、必読の一冊です。



『やさしくて小さな暮らしを自分でつくる』
(阿部 絢子 / 著
家の光協会 2004)

著者が、環境先進国といわれるスウェーデン、ドイツ、イギリスなどヨーロッパの国々にホームステイし、実際に体験した生活を紹介します。

環境に配慮した暮らしのあり方を学びにいったはずが、どの家庭もこれまでに繰り返されてきた自然体の生活をしてきたことに気づかされます。

日本人が失いかけている大切なことを見直すきっかけを教えてください。



『うちエコ入門』
(ペオ・エクベリ &
聡子・エクベリ / 監修
宝島社 2007)

スウェーデン出身のペオさん夫婦のエコ生活を紹介します。いままでの暮らしを見直すヒントを提案しています。

ペオさん夫婦は、二人暮らしですが、家から出るゴ

ミの量は、1ヶ月にサッカーボール1個分といれます。さてその秘訣は？

<手づくりLOHAS>



『地球にやさしい
ECOバッグ』
(ブティック社 2007)

レジ袋から、マイバックへ切り替えられた方も多くなってきました。使い勝手のよいバックがなかなか見つからない・・・そんな方にお勧め！自分の好きな生地で作ったバックを手づくりしてみませんか。大小さまざまなバックを紹介しています。



『ふるしきでエコライフ』
(森田 千都子 / 著
ブティック社 2006)

ふるしきは、漢字では風呂敷と表し、室町時代風呂に敷いていた布が始まりといわれています。

昭和中期ごろまで、庶民の生活には欠かせないものでしたが、紙袋やビニール袋の普及により急速に忘れられていきました。

環境保全の考えが広まった近年、ふるしきがまた注目されるようになってきました。包むだけでなく、ファッションやインテリアなど、創意工夫で変化する1枚の布でエコライフを実践しませんか。



(本館・館外奉仕係 早瀬)

岩倉政治文庫の資料 3



<左：単行本（新日本出版社 昭和44年刊）右：絵本（ポプラ社 昭和50年刊）>

昭和22年11月、雑誌「子供の広場」に、「空気がなくなる日」と題された、岩倉作の児童向け短編小説が掲載されました。

静かな農村にある日、地球に接近してくる天体の影響で、五分間だけ空気がなくなってしまうらしい、という噂が飛び込んできます。おかげで村はパニック状態に陥り、どうやらゴム袋に空気を溜めて少しずつ吸わないと、生き延びることができないと分かったら、ゴム袋や自転車のタイヤチューブが一気に高騰するという大騒動になります。ところが、裕福な地主の一家はともかく、金銭的余裕のない貧乏な農家では、対策を講じる術もなく、子供たちをはじめ、家族全員が死を覚悟せざるを得ない羽目に陥ってしまいます。

いよいよ空気がなくなるという当日、地主の息子・大三郎はタイヤチューブを山のようにかかえて、小学校に登校してきますが、そんな格好をしてきたのは、彼だけでした。そして先生も子供たちも皆怯えながら、恐怖の五分間を待ったのですが、結局何事も起こらず、すべてはデマに踊らされたにすぎなかった、という物語です。

ここでは、噂話に翻弄される人々の滑稽な姿を、ユーモラスに描くかわら、農村に存在する貧富の格差を巧みに織り込み、また、自分だけ生き延びることが果たして幸せなのか、といった哲学に通ずる問いかけを行なうなど、岩倉の取り組んできたテーマが、見事に凝縮されており、まさに傑作とよぶにふさわしい作品といえるでしょう。

初出以降、数々の児童文学アンソロジーに収録され、単行本や絵本は、現在も版を重ねるロングセラーとなっています。また、教科書にも採用されたり、映画化もされるなど、すぐれた評価を受けている作品でもあります。

この「空気がなくなる日」は、明治43年にハレー彗星が地球に接近した際、一時的に人々の間に広まった「空気がなくなるらしい」という流言を素材に、岩倉が創作したものといわれており、その76年後、ハレー彗星が地球に再度接近した昭和61年ごろには、ふたたびこの作品が注目を集めました。その話題性もあり、当時神奈川県の中学校で、国語授業の教材として取り上げられた際の事例が、夏目武子著『国語教育としての文学教育』に紹介されています。この時、作品を読んだ中学生たちが、当時すでに80歳近くになっていた岩倉のもとに、作品についての質問や感想を手紙にして送り、岩倉がこれに返事を書いています。

作品の核心にふれる質問に対しては、中学生だからといって手を抜くことなく、正直で丁寧な回答を寄せる一方、「作者は、この話で何がしたいのか?」というストレートな質問には、「さあ、何がしたいんだろうねえ。それをいわずに、よんだひとにあれこれと考えてもらおう、というのがいじわるな小説家の考えなのです。ごめんね!」とさりりとかわすなど、岩倉らしいユーモラスな姿勢もうかがえます。

この時点で、作品の発表からすでに40年が経過していたこと、両者の年齢差が65歳にもおよぶことを考え合わせると、この作者と読者の交流にはじつに興味深いものがあります。



レファレンスあれこれ

Q. 富山県内のらせん水車について、歴史、仕組み、特色などを知りたい。

A. 『富山大百科事典』(北日本新聞社 1994)の「螺旋(らせん)水車」の項目に写真・図解がある。「戦前の富山平野で爆発的に普及した農業用水車で、東砺波郡南般若村(現砺波市)の鍛冶・元井豊蔵が考案したこと。細長い筒に鉄板の羽を螺旋状に取り付けた水車で、脱穀機や籾摺り機などの動力に利用されたが、戦後電動機に切り替わり60年代には大半が廃止されたこと」の記述がある。

次に「螺旋水車」「水車」をキーワードにした蔵書検索から以下の資料を調べてみた。『富山写真語・万華鏡』は、「鰯」「北前船」「合掌造り」など毎号一つ富山の事象をテーマに、白黒写真と識者の文章を織り交ぜた構成の月刊誌である。57号で「螺旋水車」を取り上げている。富山県は、その地形や豊富な水量をもつ河川に恵まれていることから、当時、改良を重ねた螺旋水車が次々と製作され、農業の機械化に貢献したことがわかる。

『富山民俗の位相』(桂書房 2004)『砺波の民具』(砺波市立砺波郷土資料館 2006)には図や写真と簡単な解説がある。『螺旋水車』(田中勇人 1990)は、螺旋水車に関する年表や現存する螺旋水車一覧、農業用水車台数の推移などの資料をはじめ、歴史、種類や仕組み、製作業者の変遷などについて、著者が学生時代から調査した全てが収録してある資料である。

『水車と風土』(古今書院 2001)『水車の技術史』(思文閣出版 1987)の中にも富山県の螺旋水車に関する記述がある。

また、砺波市のチューリップ公園に隣接している「水車苑」や城端町の「城端水車の里」、井波町の「らせん水車の館」などで実物を見ることができる。

Q. 大正12年富山市では秋季学年制を導入し9月に入学式を実施したという。これは富山市独自の制度だったのか、全国ではどうであったか知りたい。

A. 『富山大百科事典』(北日本新聞社 1994)の「秋季学年制」の項目に、富山市の小学校8校で、1923年(大正12)から34年(昭和9)まで実施されたとある。24年の入学児童のうち、早生まれの児童を半年以上繰り上げて23年9月に入学させ、同一学年内に秋季学年組と通常の4月入学の普通学年組の二つが併設される「二重学年制」ともいえるものだったとある。法規上は「小学校令」施行規則の範囲に入り問題はなかったが、当時全国の公立小学校の中に実施校はなく、広島高等師範附属小学校だけが実施したとあった。

『富山市史 通史』『富山市史 通史編 4 近代下』『富山県教育史 下』『富山県の教育史』についても、内容はほとんど上記と同じ簡単な解説があった。

インターネットで「秋季学年制 富山市」をキーワードに検索すると、『国立教育研究所広報 111号』(1997)に収録された『学年制「二重化」の是非』という論文が紹介されていた。この制度は富山市独自のものではなく、1909年(明治42)文部省の小学校施行規則(省令)25条改正によるものであり、全国の状況や導入に至る経過など詳しい記述がある。公立では11府県が実施し、実施校が多く実施期間も長かったのは富山県であったと明記されている。

なお、県立図書館に、当時富山市が発行した『秋季学年制』『秋季学年経緯録』『秋季学年概要』という資料を所蔵している。(本館・館内奉仕係 北山)

平成20年4月22日 富山市立図書館 編集・発行
富山市丸の内1丁目4-50 TEL・FAX 076-432-7272
HP アドレス <http://www.library.toyama.toyama.jp>
E-mail lib-02@library.toyama.toyama.jp